

知的財産事例

有限会社スマッシュ

知財が起爆剤となり、“スマッシュらしさ”を極める取引先からの「アレが欲しい」にスマートな名前を

事業内容

1991年設立
紙製パッケージの企画・製造・販売
パッケージデザイン

知的財産権と内容

商標第6293584号	SMART CARTON (ロゴ)
商標第6324122号	SMART CARTON (名称)
商標第6453406号	COMPACT SCREEN (ロゴ)
商標第6443629号	OUCHIフレーム (名称)
意匠第1683738号	卓上ついたて (COMPACT SCREEN)

他 商標権1件

(2024年8月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 荒木 賢一朗さん

父や祖父が築き上げた事業を前身に 新たな道を切り開いた

当社は荒木代表の祖父が営んでいた紙製パッケージの会社を前身に、そこに入社した先代がのれん分け的に独立したのが始まりである。当初は信頼する営業担当者と二人三脚で立ち上げた。パンフレットや版下の作成など、印刷に関する“何でも屋”として重宝されていたが、デザイン事業に力を入れるきっかけとなったのは、元々雑誌の編集者を務めていた荒木代表が社長に就任したことだった。当時は社内デザイナーも育てていない状態だったため、フリーランスのデザイナーたちとも協業しつつ、独自性の高いパッケージを追求していった。現在は初めて商標を取得した『SMART CARTON (スマートカートン)』をはじめ、地元・宮城に留まらず幅広い地域でサービスが利用されている。

自社の活路を見出すべく開発された『SMART CARTON』

社長就任の前に参加した、東北経済産業局の「知財経営開発・人材育成事業」に関するセミナーをきっかけに、知財を意識するようになった荒木代表。セミナーで出逢った弁理士がその後も定期的に声かけしてくれたことから「いずれ自社製品を開発した際には、彼らのような専門家に相談したい」と考えていた。知財の取得を本格的に検討したのはコロナ禍のことだ。観光のストップにより地元の土産品の販売が厳しくなり、

パッケージを制作していた当社の業績にも影響したため、何か新たな強みを作れないかと試行錯誤した。そこで、近年需要が高まるECサイト事業に対応するため生み出されたのが、段ボール製パッケージ『SMART CARTON』である。これはシンプルなデザインの外側に対し、内側を華やかなフルカラー印刷で仕上げ、外装箱の耐久性と化粧箱としての美しさを両立させたのが特徴だ。また、形状や寸法、材質を用途に合わせて自由に選択できる。特に梱包資材の過剰在庫や廃棄、無機質さなどが課題となりやすいECサイトでの発送において、オリジナリティを演出しながらコストダウンや環境負荷の軽減を見込める点が魅力である。

クリエイティブ主体ならではの姿勢で ニーズに合わせた製品を開発

当社の営業部にはクリエイターが多く在籍しているため、顧客ニーズに合わせた製品を先に作り、その活用を模索していくというプロダクトアウトを行えることが強みの1つだ。SMART CARTONを開発した後、ブランド力を高める目的で商標の取得を検討。「親しみやすい言葉を組み合わせることで独自性を出すこと」を意識し、編集者時代の経験を活かして荒木代表自らネーミングを行った。知財の取得にあたっては、前述のセミナーで縁があった弁理士からの紹介を受け、INPITの宮城県知財総合支援窓口を訪ねた。実際の書類作成等の手続きは荒木代表が自ら担当したものの、知財の知識習得

や書類の添削をはじめ、「サポートがなければ諦めていたかもしれない」と思うほど、専門家に助けられた面も大きかった。知財取得により、メディアに取り上げられる機会が増えたことに加え、これまで取引先から「アレが欲しい」と言われていたものが「SMART CARTONが欲しい」に変わり、ブランド力の向上を実感した。また、知財を取得したからこそ、「知財は金融機関に対し、企業としての安定した基盤や将来を見通す力を証明するものとなり得る」ことを知ったという。

知財取得における苦悩



「専門家のサポートもあり、知財の取得はスムーズにできた」と話す荒木代表。とはいえ会社として初の試みだったため、取得を検討した当初は、不安を感じていた社員への説得から始まったという。当時、コロナによる財政状況の変化を開示した上で、売上に繋がる新たな強みが必要であることを丁寧に説いた。その結果、社員の理解を得られ、現在では専門家とのやり取りを担う知財担当者も置かれている。一方で「既存の

ビジネスの枠組みに捉われず知財を効果的に活かしていくためには、今後も会社全体の意識改革が必要だと思う」と荒木代表は語る。近年は計画的な新卒採用にも乗り出し、“スマッシュらしき”をともに作り上げられる人材の確保・育成に尽力しているそうだ。

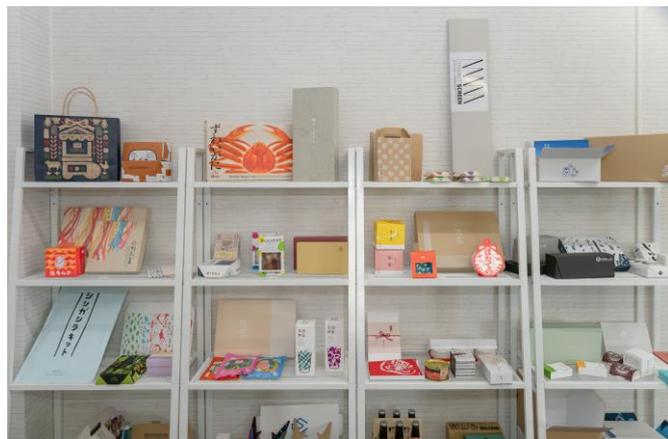
知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「今までやったことがなくても、各自治体に頼りになる専門機関があるので、ぜひ相談してみしてほしい」と荒木代表は話す。また「当社にとって、知財取得はこれまで向き合ってこられなかったものを振り返る好機、そして会社が変わるための起爆剤となってくれた。取り組むことで必ず“気づき”を得られるので、それだけでも会社の成長に繋がると思う」と続けた。加えて、「今後は地元である東北地方をさらに盛り上げ、地域の人々の支えとなるためにも、より一層知名度の向上に努めたい」との想いも語った。従来の武器を大切にしつつ、新たな武器を育てていくために、知財は貴重な財産となる。



シンプルながらスタイリッシュな『SMART CARTON』。デザインは自由



従来の枠組みに捉われないセンスで生み出された、数々のパッケージたち



知的財産活用のポイント

知財を通して社員をはじめとする“人”の重要性を実感

「INPITの伴走支援を通じ、会社の在り方も見直せた」と荒木代表は話す。その中でつくづく実感したのは、“会社を知る人がいなくなれば会社は過去のものとなり、知的財産も失われていく”ということ。反対に、人材が定着すれば、知財をはじめ

とする会社の価値も次第に上がっていくと考えている。優秀な人材の確保に向けては、企業のイメージや信頼度を上げることが重要だ。その戦略の一環として、今後も知財を積極的に取得・活用していく予定とのこと。知財は自社の権利を守るだけでなく、将来的な会社の方針や安定した基盤を作る上でも重要な役割を果たしてくれる。

COMPANY DATA

取材：2024年8月

企業名：有限会社スマッシュ 所在地：宮城県仙台市宮城野区中野神明108 電話番号：022-387-0750

URL：<https://smash-sendai.jp/work> 創業：1991年 資本金：300万円 従業員：18名

